

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者 : 60代 女性 要介護3

病 名 : くも膜下出血、頭蓋形成術後、完全房室ブロック、ペースメーカ植え込み術後、便秘症、排尿障害、逆流性食道炎、鉄欠乏性貧血

経 過 : 夫と二人暮らし。病前は刺?・裁縫・手芸や近隣に住むお孫さんの育児のサポートをされておりました。令和3年4月台所で倒れているところを夫が発見し救急搬送、くも膜下出血の診断で入院。開頭クリッピング術施行。その後、人工骨感染併発のために約1ヶ月ヘッド・ギア装着のみで生活される。同年9月に自宅退院。退院後も高次脳機能障害（意欲集中力低下、注意障害、左半側空間無視等）の影響で常に見守りが必要な状態でした。24時間対応の訪問看護ステーションを利用しておりましたが、ご家族の希望で、けやき利用開始となりました。

内 容

退院後のご本人は、高次脳機能障害（意欲低下、集中力低下、固執性、感情失行、依存性、衝動性、注意障害、左半側空間無視等）の影響により、常時見守りや声掛けが必要な状況でした。特に会話が成立しなくてパニック状態になる場面が多々見られました。そういったこともあり、他事業所の支援者とは度々ぶつかる場面が認められました。

「退院後に毎日入れ替わり立ち替わり多くの知らない人が訪問しては妻とぶつかるので疲れてしまった。家の中の動きは私ができる事を確認する。入浴も見守りしてもらえば一人でできるので、もういい、もう疲れました。」と旦那様から相談がありました。ケアセンターけやきでは旦那様に介入していた経緯もあり、ケアマネ、ご家族との相談の結果、けやきでの支援開始となりました。

旦那様からは「外で車や自転車が脇を通る時にとっさの判断ができずに危険なので、安全に屋外で歩けるようにリハビリしてほしい。」と具体的な目標設定ができました。

ご本人からは、「一人での留守番の時にがチャイムや電話が鳴ると判断でパニックになる。屋外歩行を安全にしたい。調理のリハビリをしたい。」ともありましたので、精神面での安定も図っていきました。

毎回、開始前に何をするかを決めて取り掛かり、注意する点を検討してから開始して、介入後の振り返り等を繰り返し実施していきました。

介入から約1年間を通じて、繰り返し行うことで、ミスも減り、安全性も向上してきました。ご本人も少し

ずつ自信もついてきて、不安感も軽減され、屋外歩行や買い物等もほぼ見守り～自立レベルまで到達されました。状態が改善したことで、ご本人の笑顔を見ることができてきました。旦那様の疲労も改善されてきました。また、共倒れにならなかったことでお子様たちも安心され、介護にも前向きになれましたのでキラキラ介護賞に値すると思い推薦させて頂きました。